



NO.010

FAS通信

平成16年2月号
株式会社福地建装

上磯町中野通321番地
TEL0138-73-5558

高齢者の家庭内での事故は交通事故より多い

今年に入り日本列島に、強い寒波が居座り、北海道の道東（北見・網走・釧路・根室地方）には過去最高の大雪や、北陸では三年ぶり、四国・九州でも厳しい寒さが続いております。特に冬場は高齢者にとっては、温度変化が大きく厳しいものとなり、思わぬ形で人の体を襲います。

全国の不慮の事故死亡者数（国民衛生の動向 2002 より）を見てみると、交通事故者 4,980 人に対して、溺水などでなんと、1 年間に 1 万人以上の高齢者が浴室で亡くなっていると推計されます。

家の中の温度差で考えてみると、寒々とする脱衣場で服を脱ぎ、寒い風呂場に居ると血管が縮んで血圧が上がります。

そこで、温かいお湯につかることによって血管が膨らみ、血圧が急激に下がるという現象が起こります。お風呂のお湯の温度が高く、浴室と脱衣場の温度差が大きいほど血圧は激しく変動します。「お風呂の湯につかって立ちあがろうとしたら、立ち眩みがしてしまった」こんな体験をされた事はないでしょうか？

もしそのまま倒れてしまったら、お風呂のお湯の中に沈みこんでしまい、もし誰も気付かなければ・・・と考えると恐ろしくなります。

いかに温度差の無い家づくりが必要かということが改めて分かります。

温度差はハウスダストの大きな要因に

急激な温度差が、人に対して死に至るような、予想以上のストレスを与えている事が、上記のデータでも確認できます。しかし、部屋ごとの温度差は、思いもよらぬところに大きな影響を与えています。

一般にハウスダストと呼ばれるものは、カビの死骸（カビの胞子が活動を停止している状態）がほとんどだと言われています。

このカビの胞子が、暖かい部屋と寒い部屋の界壁に発生する場合があります。これは、家族が集まって生活している居間などの温度と湿度は必然的に上昇します。およそ、23 度、湿度 60% くらいになるのが普通です。この時の露点温度（結露が始まる温度）は 15 度です。

外気温が低くなれば、この時、断熱と気密性の伴わない家で、暖房をしていない隣の部屋の温度が 10 度以下になる場合があります、この寒い部屋との間仕切壁の温度が 15 度以下になりますと、この壁に結露が始まるという事になります。

しかし、間仕切壁は石膏ボードや木材などでできており、表面結露として見えませんが、この間仕切壁が湿気を吸収して建材などの含水量が増大し、この部分にカビの胞子が発生します。この状況を毎日繰り返す事で、ハウスダストが室内に飛散して、これを住む人が吸い込みますと、アトピー性皮膚炎などを引きおきす場合が多くあります。健康空間とは先ず、温部屋ごとの温度差がいかに少ない環境で維持することが肝心なのです。